



若井 敬一郎

一般社団法人東北経済連合会 副会長

世界遺産の登録に向けた大きな一歩

2019年12月19日、青森、岩手、秋田、北海道の4道県の全17カ所の遺跡群を指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」について、政府は2021年に登録をめざす世界遺産への推薦を決定し、2020年1月16日には、ユネスコ世界遺産センターへ「Jomon Prehistoric Sites in Northern Japan」の推薦書が提出されました。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、温暖湿潤な環境のもとで約1万年にわたり自然と共生し、高度に発達・成熟した採集・狩猟・漁労文化を築き、長く定住したことを示す貴重な遺跡群と評価され、2009年に国の世界遺産暫定リストへ記載され、それ以降、登録に向けた活動が行われてきました。

「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、縄文時代の草創期から晩期にかけて、人々の生活跡の実態を示す遺跡や、祭祀や精神的活動の実態を示す記念物といった資産などを指しており、北海道からは、大船遺跡、垣ノ島遺跡、キウス周堤墓群、北黄金貝塚、入江貝塚、高砂貝塚の6カ所、青森県からは、三内丸山遺跡、小牧野遺跡、大森勝山遺跡、是川石器時代遺跡、田小屋野貝塚、亀ヶ岡石器時代遺跡、太平山元遺跡、ニッ森貝塚の8カ所、秋田県からは、大湯環状列石、伊勢堂岱遺跡の2カ所、そして岩手県の御所野遺跡と、全17カ所の遺跡群で構成されており、特に、三内丸山遺跡と大湯環状列石は、日本文化の象徴として評価される史跡である「特別史跡」に指定されており、同時代の遺跡としては全国に4カ所しかない大変希少な歴史資産となっています。

全体の約半数となる8カ所の遺跡が立地する青森県は、4道県のなかで、縄文遺跡群世界遺産登録推進本部の事務局となるなど、推進の中核を担ってきており、私も、青森県商工会議所連合会の会長として、「青森県の縄文遺跡群 世界遺産をめざす会」の会長を務めさせていただき、地元の機運醸成や情報発信に力を注いできた経緯があることから、世界遺産登録に向けた大きな一歩を大変嬉しく思っております。

これからのスケジュールといたしましては、2020年9月頃、国際記念物遺跡会議（ICOMOS）による現地調査を受け、最終的には2021年夏頃の第45回世界遺産委員会において審議される予定となっております。

特に近年、本県では、民間からの世界遺産登録に向けた応援や期待がさらに高まっているところであり、登録に向けた活動の一層の活発化はもとより、世界文化遺産登録が実現した後の保全や伝承、広域連携、経済効果の波及などを含めたその後の在り方についても、既に検討すべき時期と考えており、多角的な視点から、民間の立場の意見をしっかりと述べていきたいと考えております。

（青森県商工会議所連合会 会長・わかい けいいちろう）